

令和4年度
公私幼保合同研究会まとめ
特別支援教育・保育研究会



大阪市保育・幼児教育センター

ねらい

合理的配慮やインクルーシブの理念を正しく理解し、客観的に子どもの姿を捉え、一人ひとりの特性に応じた支援方法を考え、検証する。

講師

大阪公立大学

准教授 木曾 陽子 先生

テーマ

子どもの特性を捉え、一人ひとりに応じた支援方法を考える

内容・研究の方法

・子どもの行動の原因や背景を、そのプロセスから「なぜ？」の視点をもって探り、保育実践を重ね、グループでの事例検討を行う。

・少人数のグループで実際の子どもやクラスの状況を出し合いながら、実践研究を行う。

参加園所

保育所型認定こども園 十三保育園	大阪市立長橋第2保育所	大阪市立三国保育所
大阪市立喜連保育所	大阪市立松之宮保育所	大阪市立梅本保育所
のぎく保育園	イカイノ保育園	大阪市立西淡路第2保育所
ほっぺるランド国津橋	大阪市立住吉保育所	大阪市立加島第1保育所
大阪市立瓜破保育所	大阪市立南大江保育所	大阪市立御幸保育所
大阪市立中川保育所	大阪市立北加賀屋保育所	大阪市立鯉江保育所
大阪市立生野保育所	にじのとり保育園	大阪市立佃保育所
大阪市立住吉乳児保育所	みつばさ保育園	
大阪市立長吉第1保育所	大阪市立日之出保育所	
大阪市立御崎保育所	みどり保育園	

実施一覧

回数	日時	場所	内容
①	6月1日(水) 13:30~17:00 (15:00~特別支援教育・保育研修会と合同開催)	保育・幼児教育センター	講義Ⅰ・Ⅱ・演習Ⅰ 研修: 困り感のある子どもへのかかわり
②	7月13日(水) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	演習Ⅱ・Ⅲ・講義Ⅲ 模擬事例(ワークシート)
③	8月3日(水) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	ここまでの振り返り グループワーク(事例検討)
④-1	9月2日(金) 9:30~11:30、13:00~17:00	Aグループ園所 保育・幼児教育センター	子どもの観察実践A グループワーク(実践の振り返り、事例検討)
④-2	9月6日(火) 9:30~11:30、13:00~17:00	Bグループ園所 保育・幼児教育センター	子どもの観察実践B グループワーク(実践の振り返り、事例検討)
⑤-1	10月19日(水) 9:30~11:30、13:00~17:00	Cグループ園所 保育・幼児教育センター	子どもの観察実践C グループワーク(実践の振り返り、事例検討)
⑤-2	10月20日(木) 9:30~11:30、13:00~17:00	Dグループ園所 保育・幼児教育センター	子どもの観察実践D グループワーク(実践の振り返り、事例検討)
⑤-3	11月17日(木) 9:30~11:30、13:00~17:00	Eグループ園所 保育・幼児教育センター	子どもの観察実践E グループワーク(実践の振り返り、事例検討)
⑥	12月7日(水) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	グループワーク(実践の振り返り) ここまでの振り返り・演習Ⅳ
⑦	1月11日(水) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	個人まとめ報告と修正 グループのまとめ作成
⑧	3月1日(水) 14:00~17:00	保育・幼児教育センター	ポスター発表(個人まとめ・グループまとめ) 講義Ⅳ

第1回(令和4年6月1日)

◎講義Ⅰ:理念と支援検討のプロセス

- ・インクルーシブな保育を行う

⇒「包み込む＝排除しない」とはどういうことを考える

⇒そもそも保育において何を大切にすべきなのか考える あたりまえを見直す

- ・合理的配慮を行う ⇒「同じ場において何もしない」ではなく、必要な配慮を可能な限り行う

- ・ユニバーサルデザインを意識する

⇒多様な子どもたちがいることを前提に、みんなにとってより分かりやすい方法を模索する

◎講義Ⅱ:支援検討のプロセス

- ・子ども一人ひとりをよく理解する(子どもの行動の冰山モデルの5つの観点)

子どもの視点に立ってなぜ?と考えることで見方が変わってくる

- ・同時に集団から捉える

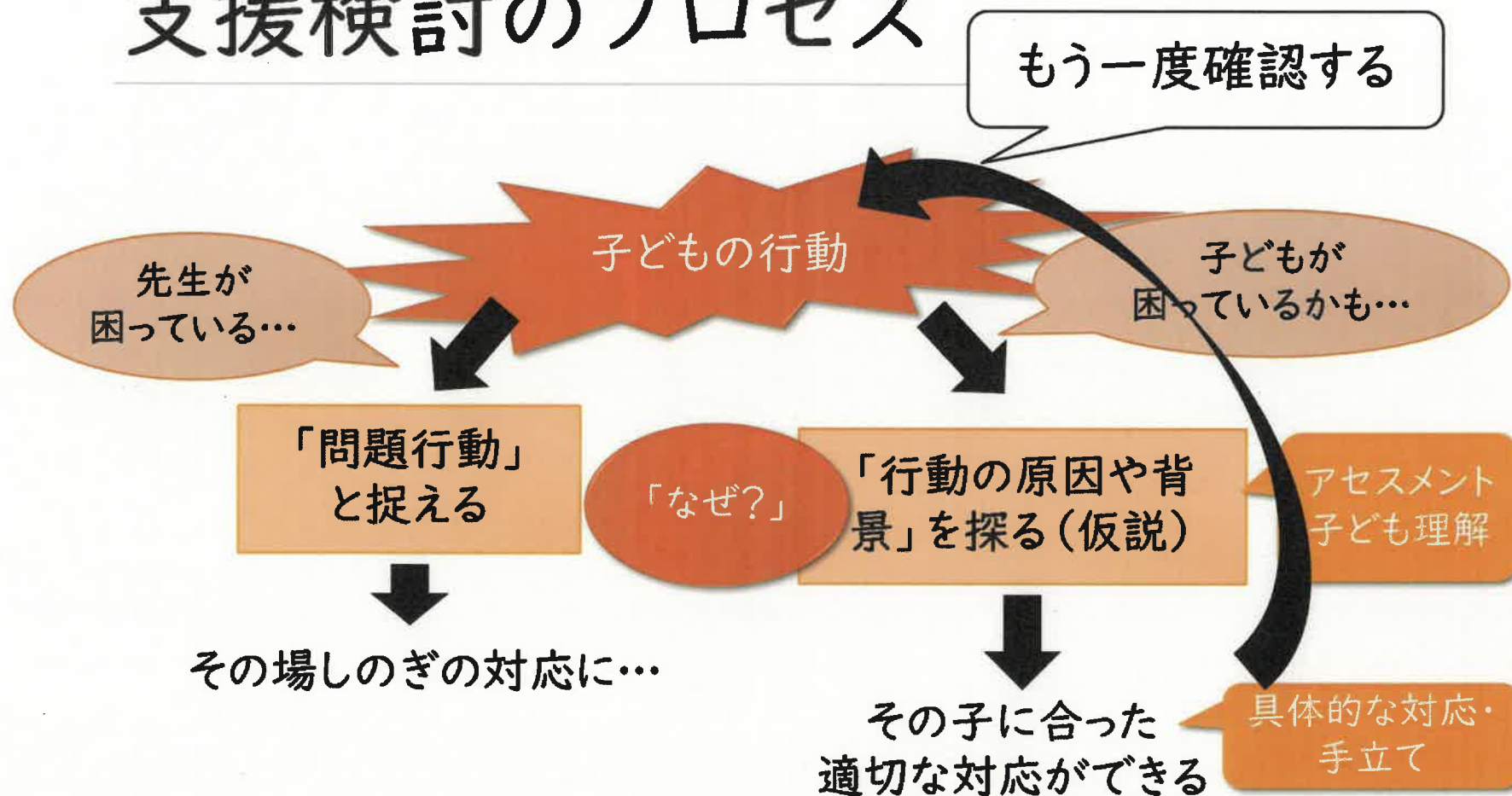
⇒集団の関係性から捉えると見えてくることもある クラスにとって良いものになるように

◎演習Ⅰ:グループに分かれて自己紹介・対象児の情報共有

☆この研究会を通して『保育って楽しいな!!』

と思えるようになっていきましょう!

支援検討のプロセス



公私幼保合同研修 特別支援教育・保育研修会 合同開催

◎視点を変える:大人の困り感→子どもの困り感

子どもの困り感に気付く⇒もしかしたら子どもが困っているのかも!!

・保育者の困りも大事

しかし保育者が困っていないときも隠れた“困っている子ども”がいる場合もある

・保護者への支援

1. 保護者の認識を知る 2. 保護者の不安や心配が聞けたときはチャンス

⇒まずは子どもへの適切な対応ができるように!→保護者の信頼にもつながる

◎子ども理解を深める:子どもの背景・原因を探る

子どもの行動の氷山モデルを理解する

(感覚、記憶、コミュニケーション、興味・理解、集中力・思考のくせ)

◎具体的な手立てを知る:背景・原因にもとづいた対応を考える

1. 環境の調整(「場所」の構造化、「時間」と「活動」の構造化)

2. 力を伸ばす活動

3. 行動への支援

4. コミュニケーション支援

第2回（令和4年7月13日）

◎演習Ⅱ：対象児の姿の共有（支援検討シートを基に共有する）

1. 対象児の気になる行動や強みなどをシートに書き出す
2. 「なぜ？」を考えてみる、いろいろな視点から観察してみる
ポイント→エピソードを話すときに【主観】と【客観】を分けて伝える

◎演習Ⅲ：支援ツールの共有

- ポイント→ツールを使用するときに、何のために使っているのかを、しっかり理解する
子どもの様子を見て使用していく



◎講義Ⅲ：保護者への支援

- ・子どもの障がいがある場合に生じる保護者の複雑な心情を理解し、園所内で促す役割と支える役割の整理をし、適切な支援を行う

保護者の気づきのプロセス

- ①違和感をかき消す
 - ②曖昧な違和感が徐々に明確になる
 - ③わが子のニーズを認識する
 - ④親として“子どものために”行動する
- 特に保育者は②曖昧な違和感が徐々に明確になる段階を意図的に待つことが重要となる

◎模擬事例ワークシート（グループで検討する）

- ステップ1. “気になる行動”を書き出す
ステップ2. ステップ1で書き出した“気になる行動”について、なぜそのような行動を取るのか（気持ちや困り感）を書きこむ
ステップ3. 「気になる姿」を1つに絞り、「なぜ」や「援助」や手立てを考えてみましょう



第3回（令和4年8月3日）

◎前回の模擬事例の発表と振り返り

・支援シートの記入について

「気になる姿」→「なぜ」をしっかりと考えて記入する

「気付き」→うまくいかない時は、なぜ上手くいかないのか、「なぜ」が間違っていたのか、
「なぜ」にそった援助になっていないのか、実践できなかった場合はその理由を考える

◎グループワーク（事例検討）

①事例提供者、司会、タイムキーパーを決める

②事例提供者から簡単な説明を行う

・対象児の年齢・所属クラスの概要・対象児の特に気になる姿、対象児の強みや好きなこと

③事例提供者に全員で質問をし、情報収集をする

・特に対象者の気になる姿について4W1Hを聞いていく

・事例提供者は具体的なエピソードを交えつつ回答する

・適時、保育室の環境図などを書いて見せてもよい

④話したい「気になる姿」1つについて「なぜ？」を考え、付箋に書き出す

⑤各自で書いた「なぜ」を出し合い、模造紙に整理する

→特に可能性が高いと思われる「なぜ」を2つに絞る

⑥⑤で決めた「なぜ」2つに対して、どのような援助・手立てができるかを付箋に書き出す

⑦各自が書いた「援助や手立て」を出し合い、模造紙や整理シート上で整理する

→事例提供者がその中から実践してみようと思うことを3つ程度に絞る



研究会で使用する支援検討シート



支援検討シート

気になる姿	ねらい	具体的な援助・手立て	その後の様子	気づき
	子どもを主語に スモールステップで	・物的環境の調整 ・クラス全体への支援 ・個別の支援		
なぜ?	子どもの視点にたって、子どもの困り感や障がい特性、集団との関係から考える			
「改善する」という視点ではなく、 その子の良さをベースにしたその子の育ちを大事に…				

<子どもの強み・好きなこと>

第4・5回（令和4年9月2日～11月17日）

◎子どもの観察実践（9:30～ 午前中実施）

各グループごとに子どもの観察実践を行う（5回実施）

実際に対象児の姿を観察し、実態を把握する

観察してどうだったかを、各グループで話し合いを行う

観察実践を踏まえた事例検討を行う

◎グループワーク（実践の振り返り、事例検討）

事例検討

※毎回事例提供者を交代し、グループで事例検討を行う。

- ・前回の事例検討で出た手立てを行ってみてどうだったか、その後の様子の報告をする。

※「援助・手立て」は整理する

1. 物的環境の調整
2. 全体への支援や保育方法の変更
3. 対象児への個別支援

分類の仕方例

	1) 物的環境の調整 ※あらかじめ準備	2) 全体への支援や 保育方法の変更	3) 対象児への個別 支援
「なぜ」①			
「なぜ」②			

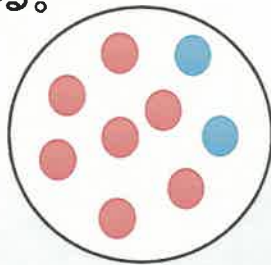
第6回(令和4年12月7日)

◎グループワーク(実践の振り返り)

◎第1回から第6回までの振り返り 統合保育からインクルーシブ保育へ

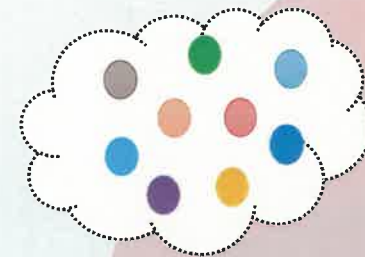
統合保育 (インクデレーション)

障がいのない子どもたちの中に障がいのある子どもを統合して保育する。



インクルーシブ保育

子どもは一人ひとり多様であることを前提に、すべての子ども一人ひとりのニーズに応える保育を行う。



◎演習Ⅳ:個人まとめの作成

第7回(令和5年1月11日)

◎個人まとめの報告と修正

グループで個人まとめの報告を行う

◎グループまとめの作成

次回ポスター発表をするので、グループで話し合って内容を決める(模造紙で作成)

①個別の経験を越えて、本研究全体で学んだこと

②今後、それぞれの実践に何をどう活かしていきたいか、またどのようにすることで活かせるか
この2点は記入していく



最終回（令和5年3月1日）

◎ポスター発表（個人まとめ・グループまとめ）

グループ内で前半・後半に分かれて、
グループの発表者として報告をする
全員が発表者、聞き手となる



◎講義Ⅳ：全体のまとめ

・特別支援教育・保育の視点

「気になる子ども」への個別対応ばかりが増えていくのは、
「子どもたち全員への支援」が、十分ではない可能性がある
まずは「子どもたち全員への支援」を見直すことが大切

・今後に活かす視点

①多様性 「みんな違っていい」

子どもたちはみんな個性特性を持っている

→障がいの理解を通して、マイノリティの子どもを含めたみんなにとって
「できた、わかった、たのしい」の保育へ

②「なぜ」を大事に

→保育者が「なんでだろう？」と考える 考えたことをやってみる

⇒ わかった！できた！たのしい！おもしろい！

そこから子どものたのしさ、保育者のたのしさにつながる

そのためには

時間が必要 対話が必要 子ども理解をベースに安全安心が大切に